



芦安中学校だより

第 11 号

校長 大石 浩雄

2025. 10. 3

昼間の暑さも少しずつ解消され、秋らしい日が多くなりました。秋は実りの季節といわれます。作物だけでなく生徒にとってもこれまでの学びの成果が実感できる季節にしたいと思います。

☆芦安ふれあい運動会

9月27日(土)に芦安小中学校の児童生徒・保護者と地域住民が集まり芦安ふれあい運動会が実施されました。今年は暑さが残り、熱中症などが心配されましたが、当日はさわやかな気温の中で競技を行うことができました。

開会式とはじめの体操

プログラムの最初は開会式とはじめの体操でした。地域の方や保護者に見守られながら児童生徒の入場や優勝旗の返還、誓いの言葉などが行われました。児童生徒の入場をする姿や話を聞こうとする姿勢、児童生徒の言葉等から「運動会を頑張ろう」といった気持ちを感じ取っていただけたのではないかと思います。

魅せろ！親子の絆(親子競技)

2番目は児童生徒と保護者で協力して行う種目でした。中学生くらいになると親と一緒にすることを「恥ずかしい」と思うこともあるかもしれませんが、どの生徒も競技名の通りしっかりと親子の絆を見せてくれました。

オープン玉入れ・玉入れ

3番目は玉入れです。この種目では、はじめに地域の方と保護者、児童生徒が一緒に行うオープン競技の部と児童生徒だけで行う得点競技の部がありました。オープン競技



児童生徒代表による誓いの言葉



スプーンで玉運び



高いほうの籠は難しいですね

の部では、大人と子供が一緒になってかごをねらって玉を入れ、結果を聞いて一緒に喜ぶことができていました。子供にとって親以外の大人との交流を通して学ぶことがきつとあったと思います。

中学生による全校チャレンジ(長縄跳び)

次は中学生全員によるチャレンジ種目。生徒会を中心に話し合い昨年までと違う内容にした種目です。生徒達の中で、自

分たちが目標に向けてがんばる姿を地域や保護者に見てもらおうと考えたものです。1分30秒という規定時間、連続して縄跳びを続けるのは思いのほか大変なもののですが、引っかかってしまっても途中であきらめたりやめたりすることなく、みんなで最後までできたところがよかったと思います。また、中学生がチャレンジをしているときに多くの人が大きな声で応援してくれました。がんばっていると応援してくれる人がいることを体験したことは、生徒にとってすばらしいものだったのではないかと思います。

二人三脚と宝ひろい

中学生にとって二人三脚は、縄跳びで疲れたところでの連続競技で大変だったかもしれませんが、しっかりと小学生をリードする姿が見られました。その後の宝ひろいでは、来年度小学校入学予定者の元気な姿と小学生が地域の高齢者とペアで歩く姿を見ることができました。

綱引き

はじめに大人の綱引き、それが終わってから児童生徒の綱引きを行いました。今年度は大人の綱引きの様子を子供に近くで観戦してもらいながら応援してもらおうと



低い籠にはたくさん入りました



バッチリそろっています！



声と気持ちをそろえて



応援も一生懸命でした

計画をしました。綱引きに参加して下さった大人の方に子どもの声援は届いたでしょうか。

児童生徒の綱引きも、大人に引けを取らない気持ちの入った戦いとなりました。号砲係として近くで見ている児童生徒の必死さが伝わってきました。

芦安音頭

運動会の参加者全員がトラックにそって輪になり芦安音頭を踊りました。曲が終わったときに自然と拍手が沸き起こったところに一体感を感じました。

小学生の一輪車演技・ふれあい一輪車

小学生が低・中・高学年と別れそれぞれの曲に合わせて一輪車に乗って演技をしてくれました。私は一輪車に乗ったことはありませんが、おそらく簡単なものではないと思います。日頃からの積み重ねが感じられる演技でした。ふれあい一輪車は一輪車に乗れる大人と子供が声を掛け合いながら一緒にコースをまわる様子が印象的でした。

縦割りリレー

最後の競技は児童生徒全員が参加するリレーです。小学1年生から順番にバトンをつなぎアンカーは中学3年生が務めました。最後まで全力でバトンをつなぐ、仲間を大声で応援する姿が見られました。

閉会式

競技がすべて終わり、閉会式が行われました。児童生徒は、疲れていても開会式同様話を聞く姿勢を持つことができました。感想発表では中学生の代表として金川さんが話をしてくれました。聞いていて頑張れた実感があつたのだらうと感じられました。

最後に

児童生徒、保護者、地域住民が一堂に会する運動会は、芦安小中学校の特色といえます。この特色を通して児童生徒は家族以外の大人と関係性を学ぶことができたと思います。こうした行事ができるのも多くの保護者地域の方の支えがあってこそだと思います。ご協力いただいたみなさまにあらためて御礼を申し上げます。ありがとうございました。



みんなの見本になりました



声をそろえてスタート



全力を尽くします



赤白同点で両チーム優勝

☆ふれあい運動会を終えて

2学期が始まってから約1か月、児童生徒が主体的に活動できるようにと多くの先生方が工夫を重ねている様子を見ました。その成果でしょうか、今年は運動会で中学生がしっかりと小学生をリードしてくれている、一生懸命にやろうとしている様子が見えたといった感想をいくつもいただきました。いろいろな気持ちを抱えながらも、それを乗り越えがんばる姿を見せた生徒を評価していただきとてもうれしく思いました。同時に生徒のがんばりの下地作りをしてくれた先生方の努力も評価してもらえたようで校長としてとてもうれしく思いました。



縄跳びが終わった瞬間
自然とみんなが集まって
喜ぶことができました

☆未来の科学者訪問セミナー

10月1日(水)の午後、山梨大学大学院の綿打敏司教授と大学院生2名に來校していただき、科学の面白さや不思議さを体験して興味を持ってもらうことを目的に「未来の科学者訪問セミナー」を実施しました。

セミナーの主な内容は、極低温の世界でおきる現象を、液体窒素を利用した実験を通して知っていくというものでした。はじめは講師に遠慮しがちだった生徒でしたが、時間が進むにつれ好奇心が増したようで、自分から実験に手を出すようになり、不思議な現象に思わず声が出るような場面もありました。

今回取り上げられた実験の多くは、渦電流や超電導など高校の物理や大学レベルの内容を含むものでした。ただ、理屈はわからなくてもいいという前提で行ったので、生徒はリラックスして楽しめたようでした。理屈がわかった、理解ができたという学びも大切ですが、それ以前に興味関心を持つことが大切とあらためて感じるセミナーでした。



液体窒素の中に風船を入れると・・・



どうしてアルミ管の球は
ゆっくり落ちるのだろう？



磁石が空中に
浮いてる？



芦安中学校だより

第 12 号

校長 大石 浩雄

2025. 10. 21

10月も半ばが過ぎ周囲の山々が少しずつ色づき始めました。生徒達は白峰祭に向けた取組や毎日の授業をがんばっています。

☆「PTA ふれあい豊かな森」整備へのご協力ありがとうございました

10月6日(月)の午後、芦安FCの清水様、森本様、吉澤様の3名を講師に迎え、PTA行事として保護者、児童生徒が一緒になり森林整備を通した自然体験学習を行いました。中学生はおもに、間伐した木の枝を落とし輪かんじきの材料となる枝を切り出したり、間伐した木からつくった丸太を運んだりしました。今年は間伐した木が少し太かったこともあり、丸太運びは大変だったと思いますが、中学生は積極的に仕事に取り組んでいました。

生徒にとって体を使って作業をすることは大変なことではありますが、こうした作業によって私たちの生活が支えられているということを体験するよい機会になったと思います。

今回の整備作業も含め本校では、地域の方を中心に多くの人材を講師としてお招きして、学習や体験の機会をつくることができているのではないかと思います。また、そうした機会には保護者にご協力いただくことも多々あります。大変ありがたいことです。こうしたことを当たり前と思わず、感謝の気持ちを持って学びに向き合える生徒の育成に努めていきたいと思っています。

☆第1回教育到達度確認検査が行われました

10月7日(火)に3年生を対象に教育到達度確認

検査(教達検)を実施しました。国社数理英の5教科について、これまでの学習内容がどの程度習得できているかはかり、進路選択の参考になるものです。3年生はこの検査に向けて、各自の進路に合わせた目標設定をして取り組んできました。検査の結果も、翌日には伝えられましたので、それを踏まえて今後の方向性や課題について考えていけるとよいと思います。

第2回の教達検は11月13日(木)に予定されています。それまでの間に白峰祭がありますが、3年生には今後も自分の進路に向けて計画的に取り組を進めてください。



今回の教達検とは直接関係しませんが、1・2年生の中には、進路選択などはまだまだ先の事と思っていたり、気にはしているけどあまり深く考えずに先送りになっていたりする生徒がいるかもしれません。まだ進路選択まで時間があると思っていても、時間はあっという間に過ぎてしまうものです。自分は何が好きで何が得意なのか、どんな事ならがんばれるのか、自分の進路や将来について家族と話などをしながら準備を進めておいてほしいと思っています。

☆中巨摩英語暗唱大会が開催されました

10月16日(木)に中巨摩英語暗唱大会が開催されました。芦安中学校からは2年生の根本さんが参加しました。根本さんは、全校生徒に大会の参加希望があるか投げかけた際に、積極的に手を挙げてくれました。その姿勢は、その後の課題文を覚える、実際に話すといった練習においても発揮されていました。英語担当の志村先生やALTのB先生と練習を重ね、大会当日の朝の会で、全校生徒の前で行ったスピーチは堂々としていてとても立派でした。



大会の結果は2位。優勝した生徒と僅差であったそうです。約3分間、審査員や聴衆を前にしてのスピーチは

おそらく緊張したと思いますが、この経験が自分の財産になると思います。根本さんは11月に開催される県大会に中巨摩地区の代表として参加することになっています。そこでも活躍してくれることを期待しています。

芦安中学校は小規模な学校です。だからこそチャレンジする気持ちを持っていればたくさんのチャンスが巡ってくる、手厚いサポートを受けられるというメリットがあるのではないかと思います。これからいろいろな場面で「やってみませんか」「挑戦してみませんか」という投げかけがあると思います。そうしたチャンスを生かしてもらえるといいと思います。

☆あいさつをする、感謝を伝える パート2

バスを使って登校する児童生徒の中に、降車の際、運転手さんに定期券を見せながら「ありがとうございました」と言っている子がいます。また、徒歩の児童生徒も含め、通学路に立って見守りをしてくれている地域の方に自分から「おはようございます」とあいさつをする子もいます。どちらもとても良い習慣だなと感じています。



6月のたよりでも取り上げましたが、自分からあいさつができることや感謝の言葉を伝えることができるという力は、長い人生の中できっと自分を助ける力になるはずです。小さなことかもしれませんが、こうしたことを習慣・当たり前のこととして身につけていくことが、自分の将来を切りひらいていくことにつながると思います。

☆3年生の輪かんじきづくりが 始まりました

10月17日(金)に3年生の輪かんじきづくりが始まりました。今回は先日PTAふれあい豊かな森の整備作業で切り出し水につけておいた枝を煮て柔らかくし、かんじきの形に曲げる作業をしました。この活動も自然体験活動の一環であり、講師として芦安FCの清水様、森本様、西村様の3名にご協力をいただきました。枝の長さを切りそろえる、ドラム缶で枝を煮るといった下準備を講師の方々がくださったおかげで、生徒たちは授業時間の中で枝の



皮むきと曲げの作業に集中して取り組むことができました。ありがとうございます。

生徒の感想の中には、木の枝を折らずに曲げるという体験を初めてした、思った以上に力が必要だったといったことがありました。次回はU字型に曲げた枝2本を組み合わせ輪の形にする、雪に食い込む歯の部分をつけるといった作業をすることになります。



授業の中で講師の先生がおっしゃっていたことで、輪かんじきづくりという地域の伝統を芦安中学校に通う生徒に引き継いでいってほしいというような言葉がありました。単なる工作としてではなく、教えてくれている方たちの気持ちも受け止めながら3年生には頑張ってもらいたいと思います。

☆学校農園でサツマイモの収穫をしました

10月20日(月)の朝の時間を使って小中学校の児童生徒と農園サポーターのみなさんとサツマイモの収穫をしました。4月に苗を植えてから約半年をかけて育てたサツマイモがどんな状態なのか、児童生徒はドキドキした気持ちではじめの会に参加したようです。



はじめの会終了後、縦割り班ごとに分かれ、自分たちが苗を植えた畝を中心に約30分間掘り出した結果、大小さまざまなサツマイモを収穫することができました。児童生徒が掘り当てたときの表情を見ていると、実際に自分の体を動かし体験することが子供にとってとても大切なことだとあらためて感じました。



収穫が終わったところで中学校の校庭に戻り終わりの会をして、その中で農園サポーターのみなさんに感謝の気持ちを伝えました。収穫したサツマイモについては、焼き芋に適したサイズ・形のものを選んで11月に利用し、それ以外の小さいものや大きすぎる物については、持ち帰って家で利用してもらうことになります。調理したり食べたりしながら生徒と収穫の様子などの話をしてみてください。